

世界に発信する アーティストたち

No.8

大西 敦子

Atsuko ONISHIE

装飾的な作品の背景には、さまざまな人間ドラマが秘められている。大西作品の根底で響いているのは、人間そのものの息づかいだ。



大西敦子 《願いを込めて》 10F

装飾に命を吹き込みたいという 思いがそこにある

界に出なければ通用しないという思いもあんまり無いです。——情報にしても今はネットなどでいろいろ見ることもできますから、海外はさほど特別なものではなくっていますからね。大西 そうですね、チャンスがあれば世界のいろいろな情報を雑誌とかテレビ、インターネット

トを通じてなるべく見るようにしています。私の作品は装飾的な要素を使いますから、ヨーロッパ等のものもよく見えます。——そういう情報を集めるということに関しては、海外ということに限らず、常に広くアンテナをはっているんでしょうね。大西 そうですね。いつも色彩

の感じとか形態とか装飾的な要素というのは、日常生活の中でも、あの色の組み合わせは綺麗だなとか、あの形こういうふうに関わり合っていると素敵だなとか、知らず知らずに自分自身にストックしているところがありますね。ですから展覧会が決まったらこういうテーマでやりましょうという時、わりとそういうストックから出してきて、スケッチを描いていくという感じ

ということなんです。抽象、具象についてはどのように考えていますか。大西 静物とかそのものを表現するのに、抽象の表現とか、具象の表現があるんですけど、私の作品というのはちょっと実際にある花をあまり具象では描いていない。本来あり得ないテーブルクロスとか、花瓶の平面的な要素とかを組み合わせているんです。絵を表現するにおいて、具象で描いていくのか、抽象で描いていくのか、その対比度合いだと思っんです。だから私はあまり具象に偏らず、ちょっと抽象の要素を割合として多くして、先ほど言ったように、その時の自分の描きたいと思ったことの記憶とか、印象に残った形、空気感等を織り交ぜたいという気持ちがあるんです。——タイトルの言葉もモチーフをそのまま使いたしませんね。

——在るものを写していくのではなくて、自分の中のそうした要素から描きだしていくと

大西 例えば「水仙」を描いても単純に「水仙」とは付けないんです。その時に感じて描いたこととか、表現したいと思っ

毎年、各地で行われる個展など積極的に作品発表を続ける大西敦子。装飾的な絵柄の中に、個人の思いや、描きたいと思ったことの記憶、空気感、香り、そういうものを織り交ぜた作品を発表して評価を得ている。ビビッドな色彩で強い印象を残す作品の魅力は、その中に作家のさまざまな思いが込められていて、観る者の心に温かな人間の波動が伝わってくる場所にある。今回も亡き父親と作品のエピソードが語られた。

——毎年、いくつかの個展で作品を発表してお忙しい制作活動を続けてらっしゃいますが、台湾など国際アートフェアでも、もう数年前から作品が評価されているそうですね。

大西 アートフェアを通じて少しずつ作品を世界に発信していただいていると聞いていますが、私の絵を観ていただけるところがあれば、それは枠を広げて世界にも発信していきたいなという思いはあります。

——活動の比重を海外へということではないですか。

大西 今現在日本で活躍の場を提供していただいて、それに対して一生懸命やっている段階な

ので、まだ、世界までどうということとはあまり具体的に考えてはいません。ただ、私の作品の色彩は、かなり彩度が高いので、あまり日本人という感覚じゃないね、外国に持っていくといよいよ、とよく言われるんです。そういう意味では外国で強い興味を持たれるならやってみたいなあとという気はあります。しかし海外にどうしても出ていこうという気負いみたいなものはないですね。私たちの大学の頃はバブルだったので割と海外に貧乏学生でしたけどアルバイトでお金貯めて行くことができたから、そんなに日本と海外との違いのギャップはないし、世



大西敦子 〈時とともに〉 4F

大西 例えば「秘密の贈り物」という作品は、シリーズでいろいろな図柄は違いますが、何パターンかタイトルは同じで描いているんです。3年前

て画面に描いたものをタイトルからも感じて頂ければいいと、そういう思いを込めて言葉を探します。見てくださる方が、タイトルを見て、絵を見て、「あんなにか私も感じたわ」と言ってくださったり、「どういう時にこう感じるのですか」と聞いてくださる方もいます。それで、わたしがそのエピソードを話したりすると共感してくださったり、「私もそういうことがあったわ」と言ってくださったり、そういうように思いを感じ取って頂けると嬉しいですね。

—— 作品には、いろんな物語、エピソードがあるわけですね。

に父親を亡くしていますが、実はその思いを作品にしたものです。父は突然亡くなったので、けっこう大変だったんですけど、その時に改めて父親の存在を考えました。父親はずっと私に手に職といつか、自分にしかできないものを何か身につけなさいと、小さい頃から言っていました。ですから、実際に何かものを遺してくれたのではなくて、信念みたいなものを遺していつてくれたんだなあという思いで亡くなってすごく感じたんです。それで、それを何か作品にできないかなと思いました。父の亡くなったことは悲しいことです

けど、父の残してくれたものをもっと明るいメッセージ性で伝えることができなかなあと考えてできた作品が「秘密の贈り物」なんです。父が私の中に、人生においてこういうことを身につけた方がいいよと、いろんなメッセージを遺してくれたんです。藝大を受けることも、藝大を何年も浪人しても、それにチャレンジすることの大切さとか、自分にしかできないことをやりなさいとか、全部ひっくるめて、ちゃんとそういう贈り物をくれていたんだなど。それを比喩的な表現で、プレゼントの一個一個に思い出が詰まっているという思いで描いた作品です。この作品を見た方は具体的にそんなことは分からないと思いますが、私としては、そういうエピソード性とか、私の中に残っている記憶、思い、父との関係の香りとか、空気感とか、そういうものを表現したというものなんです。

大西 そうですね、私の中ではけっこうポイントになる作品です。—— そういうポイントになる作品を制作することから、これまでの制作スタイルが大きく変わっていくということがあるんですか。

大西 常に、自分の中で現状に満足していないので、もっともっと表現したいと思う目標みたいなものがありますが、あんまり極端に変えるというのは私に向いていないと思うので、今の状況をもうちよつと掘り下げていって、自分の中で納得が行った次のステップに行こうというのがあります。細かいところは、下地のテクスチャーと表現方法を少しずつ自分の中で変えているんですけど、大きくガラッと変えたいという気持ちは今のところなくて、現在の状況、制作の感じをもう少し追究してから、次のステップ、次の目標に挑戦しようというのがありますね。

—— これから先の展開、ビジョン

ンはどんなものですか。

大西 日本の環境も昭和の時代と平成の時代は随分変わってきたと思うんですね。生活をきる環境とか、生活スタイルも変わってきました。私はデザイン科で学んだということもありますが、デザインの要素ということも常に考えています。やっぱり絵を飾るのは居住空間じゃないですか。その中で、どういう風にすれば心地よく、気持ちよ

く、生活の中に絵が溶け込むんだろうとデザイナー的視点で、そういうことをトータルを考えていきたいと思っています。

—— 画家だけの強い思いで表現することより、もう少しトータルに見られるということですね。そういう環境を考えることも大切だと。

大西 そうですね。それと常に自分が今表現しようとしている現状、表現できる環境に感謝し

ながら制作して、それで表現した作品を覗いてくださった方が受け取る、そういう相互関係があつて成り立っていると思うんですけど、やっぱりそういう関係を常に大切に作る作家でいたいと思います。発表する場を与えて頂いて、そこでチャンスを与えていたから、一生懸命新しい目標にむかって頑張つて、それを達成しながら描いて、発表した場でいろんな方に見て頂

いて、感じて頂ける、共感していただける、そういう関係がすごく大事だし、表現している人間にとってはすごく刺激になります。そして、やはり継続していくことが一番大切だと思います。女性性は結婚したり、子供を育てたりといういろいろありますが、時代の中で、常に表現し続ける画家でありたいと思っています。



大西敦子 〈秘密のおくりもの〉 10F

- 略歴**
- 1967年 茨城県に生まれる。
 - 1996年 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程デザイン専攻修了 安宅英一賞受賞。
 - 1992年 大西敦子版画展 (九美洞ギャラリー 銀座)
 - 1995年 大西敦子版画展 (ギャラリーうえずみ 京橋)
 - 1996年 大西敦子版画展 (ギャラリー GK 銀座)
 - 大西敦子版画展 (アートスペースナカカニ 茨城)
 - 1998年 大西敦子展 (シロタ画廊 銀座)
 - 2001年 世田谷美術館美術大学講師作品展 (世田谷美術館 世田谷)
 - 2005年 大西敦子展 (ガレリア・グラフィカ 銀座)
 - 2007年 大西敦子展 (ガレリア・グラフィカ 銀座)
 - 2007年 大西敦子展 (ギャラリー ART G 高崎)
 - 2008年 色彩が創る魅惑の世界・大西敦子・展 (画廊翠樹 前橋)
 - 2008年 大西敦子洋画展 一色彩が創る魅惑の世界ー (三越仙台 仙台)
 - 2009年 大西敦子展 (ギャラリーピア・ワン 千葉)
 - 2009年 大西敦子展 (ギャラリー杉 秋田)
 - 2009年 創造の楽園への思いー大西敦子展 (画廊翠樹 前橋)
 - 2010年 大西敦子洋画展〜色彩による創造の楽園へ〜 (三越 仙台)
 - 2010年 ~色彩による創造の楽園へ~大西敦子洋画展 (アルパーク天満屋 広島)
 - 2011年 2011年大西敦子展 (ギャラリー杉 秋田)
 - 2011年 一色の記憶を辿りながらー大西敦子展 (天満屋倉敷店 倉敷)
 - 2011年 大西敦子展 (画廊翠樹 前橋)
 - 2012年 大西敦子作品展〜記憶のハーモニー〜 (船橋 東武)。
 - 2012年 大西敦子絵画展〜記憶のハーモニー〜 (池袋 東武)。
 - 2012年 大西敦子洋画展〜色彩による創造の楽園へ〜 (三越 仙台)
 - 他、グループ展多数。
- 収蔵・パブリックコレクション
千葉県川鉄病院 三菱重工株式会社 明治乳業株式会社 片岡鶴太郎美術館